

1 実践の概要

実践校・園	秋田修英高等学校
テーマ	地震・津波からいのちを守る
外部指導者	秋田大学地域創生センター 准教授 水田 敏彦氏
実施日時	平成24年12月12日(水) 13時50分から14時40まで
実施場所	秋田修英高等学校 多目的室
参加者	生徒84名 保護者2名 職員16名

2 実践内容

次第・講義内容等	時間 (分)	準備・留意事項等
1 校長あいさつ	2	
2 講話(プロジェクターを使用) ・地震防災の基礎知識 ・地震が起こるメカニズム ・家具の固定や転倒防止対策 ・津波のおこるしくみ ・津波の様子(東日本大震災をもとに) ・秋田県で発生した歴史地震 ・積雪時における地震について	43	○事前にメールで担当者と打ち合わせを行い留意事項について確認した。 ・映像を活用し生徒の関心を高める工夫をする。 ・1時間ではあるが講話で生徒の防災意識が高まる内容にする。
4 質疑応答	2	○スクリーンを使用することにより映像からも学習でき生徒の興味、関心が高まるようにした。
5 感想発表とお礼の言葉	3	
	計50	

3 参加者の感想

生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波の恐ろしさを再確認することができた。 ・地震の動画を見て身の回りの家具が危ないことに気づきました。 ・映像を見て家が頑丈でも家の中が危ないのは怖いと思った。 ・自分の家で地震が来たとき家具が倒れないように工夫したいと思った。 ・講話を聞くまで仙北地方で大きな地震があったことをしらなかった。とても驚いた。 ・講話での知識をもとにして想定にとられない行動が必要だと感じた。 ・今日の講話を家族に話して、地震にあったらどうするべきかを話したい。 ・今回教えていただいた地震や津波のこと、そして何より自分が経験した東日本大震災のことを子や孫、またその子供たちに伝えていけるようにしたいと思います。 ・冬に起きる大地震はとても怖いと感じました。
----	--

4 成果と課題

成 果	<ol style="list-style-type: none">1 講話だけでなく、プロジェクターを使用して映像を見ることにより津波や地震のメカニズムの理解度が高まったと感じる。2 地震における家具の転倒ではとても身近に感じられたようであり家庭での安全の再確認ができた。3 秋田県で発生した地震について講話いただき生徒が住んでいる場所と照らし合わせたりして、歴史地震に興味や関心を持つことができた。4 東日本大震災を振り返りながら、より高い意識をもった防災意識を持つことができた。5 地震や津波が起きたときにまずはなにをすべきかを改めて考え直すことができた。
課 題	<ol style="list-style-type: none">1 演題にあるようにいかにして自分の命を守るかが問題になると感じた。とっさの行動が生死を分けることになる。さらに個人の防災意識を高め効果的な指導をしていきたい。2 積雪時における避難訓練のありかたを今一度、再検討し安全に避難できるようにしなければならない。3 これからは学校だけでなく地域との連携が必要になってくる。保護者や近隣住民に講話のお知らせをしたが参加が少なかった。参加者が多くなるようにもっと積極的に工夫していきたい。<ul style="list-style-type: none">・生徒によるリーフレットを配布しながらの近隣住民へ呼びかけ。・町内会を通じての地域との合同避難訓練。・防災教育PR活動の充実4 保護者との連絡は一斉メールで対応しているが、緊急時の連絡先や避難場所について再確認が必要と感じた。